

第 2 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

平成27年7月16日

議事録

平成 27 年度 第 2 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 議事録

会議体の名称	第 2 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局 (担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	平成 27 年 7 月 16 日 (木) 14:00~16:00	
開催場所	島田市役所 4 階第 3 委員会室	
議題	1. 開会 2. 静岡県の長期人口ビジョン (概要) 及び総合戦略 (素案骨子) について 3. 議事 (1) 地方創生に関するアンケート調査の結果 (速報) について (2) 暫定版「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン～未来創造～ (仮称)」 (素案) について (3) 「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (仮称)」 骨子案について (4) 意見交換 4. 閉会	
出席者	創生市民会議 構成員	1. 島田市自治会連合会 大石会長 2. 島田青年会議所 町専務理事 3. お母さん業界新聞 静岡・島田版 杉本編集長 4. 島田市小中学校 P T A 連絡協議会 荒波会長 5. N P O クロスメディア島田 大石理事長 6. 島田商工会議所 原田会頭 7. 島田市商工会 大塚会長 8. 島田市観光協会 鳴嶋会長 9. 島田市農業経営振興会 富永副会長 10. 静岡県立島田高等学校 青木校長 11. 島田市校長会 内田会長 12. 島田信用金庫 飯塚常務理事 13. 島田・榛北地区労働者福祉協議会 山本事務局次長 (代理出席) 14. 島田公共職業安定所 中村所長 15. 島田市 染谷市長 (副市長、教育長)
	オブザーバー	静岡県中部地域政策局 掛澤局長
	司会	島田市市長戦略部 牛尾部長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 森下課長
	傍聴	報道 市関係者 一般傍聴者

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 2 回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 ● 第 2 回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員 ● (資料 1) 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン (概要)
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ● (資料2) 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案骨子) ● (資料3) 地方創生に関するアンケート調査の結果(速報) ● (資料3 付属資料) 「地方創生に関するアンケート調査の結果(速報)」のポイント ● (資料4) 「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン～未来創造～(仮称)」イメージ ● (資料5) 暫定版「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン～未来創造～(仮称)」(素案) ● (資料6) 総合戦略策定に向けて、「人口減少」を単純化して考えてみる ● (資料7) 「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略～未来創造～(仮称)」骨子案
--	---

【議事録】

1. 開会

○司会 市長戦略部長(以下、司会)

本日は出席を賜りありがとうございます。少し早いですが、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」第2回を始めさせていただきます。本日の司会を務める島田市市長戦略部戦略推進部の牛尾です。よろしくお祈いします。それでは、初めに染谷絹代島田市長から、ごあいさつを申し上げます。染谷市長よろしくお祈いします。

○染谷市長

皆さんこんにちは。台風も近付いているこんな日にお越しいたき、ありがとうございます。

本日は、第2回目のまち・ひと・しごと創生市民会議でございます。

5月19日に開催した前回第1回会議では島田市がすでに人口減少時代に入っている現状というものを共通の認識として持たせていただきました。日本の社会全体で言うならば、人口維持ができなくなる合計特殊出生率2.0以下というのは、既に1975年にそうだったんです。1980年に手を打っていただければ良かったのですが、その頃は高度成長真っ只中。まさか人口が減ってこういうことになろうとは想像できておらず、危機感が共有できないまま来ました。2010年いよいよ日本の人口が減っていく中において、昨年は消滅可能性都市という言葉まで出て、まさに人口減少・少子高齢化の社会がこれからの日本に及ぼす影響、そして地方都市に及ぼす影響の大きさというものに我々は愕然としました。そして、逆行の中だからこそできることがあるということを経合戦略に盛り込んでいかなければならないんだと思います。色々なお話が出ると思いますが、私が先日あるアンケートで面白いと思ったことは、若い男女の皆さんにアンケート調査を行った結果、収入が増えれば男性は早く結婚したくなるが、女性はしたくなくなるそうです。女性は、結婚しない方に動くそうです。やはり人間って面白いなど。社会的政策だけでは人は変わらないのです。世界中を見ても危機感のあるところ、アジアだとかアフリカなどはたくさん子どもが生まれます。一方で、豊かな社会、成熟した社会になれば世界中どこでも、やっぱり人口は減っていくんです。そうした中においての施策ですから、この島田市もいますぐ人口減少に歯止めをかける施策にとりかかっても、なお40～50年人口が減っていくことも事実です。いかに人口を安定させて島田市の活力を維持していくかということと同時に、これから30～40年は減り続けることを前提とした中でこのまちづくりということを考えていかななくてはなりません。そうした中で前回会議で

は、1つは、交通網が整っているその地の利を生かして、国内だけでなく海外も見た産業振興の話がございました。2つめには働きながら子育てするのではなく、子育てしながら働くことができる環境の整備のご提案をいただきました。そして3つめには少子化だけでなく、高齢者が活躍できる施策や、空き家の活用の必要性など、幅広いご意見をいただいたところであります。本日は、島田市の人口ビジョン・総合戦略の骨子案を中心にご議論をいただく予定となっております。

人口ビジョンでは、島田市の将来の人口をどのように考え、人口減少にどのように向き合っていくのかということ。そして総合戦略では地方創生に向けて最初の5年間に何をするのか、何ができるかをしっかり考えたいと思っております。限られたお時間でございますけれども、市民・企業・市民団体等の皆様が一同に会したこの場で、活発な議論を行って、島田市のより良い未来について皆様方の忌たんのないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

- 司会 本日の会議の出席者につきましてはお手元の資料3枚目の名簿をご覧ください。なお島田高等学校校長の青木様については3時半ごろ退席される予定でございます。
- それでは早速議事を進めさせていただきます。
- 議事に先立ちまして、静岡県の戦略を静岡県中部地域政策局掛澤局長よりご説明いただきたいと思います。

2. 静岡県の長期人口ビジョン（概要）及び総合戦略（素案骨子）について

- オブザーバー （資料1により、静岡県の素案骨子を説明する。）

県議会でも2020年に合計特殊出生率2.07は高いのではという意見がありましたが、昨年8月に実施した県民意識調査における「既婚者の理想とする子どもの数は2.43」という結果等も踏まえ、子どもを2人以上持ちたいとする若い世代の希望をかなえるため、オール静岡で様々な効果的な対策を講じることにより、できるだけ早く2.07へもっていきたいと考えております。

（資料2を説明する。）

総合戦略の「戦略体系」として、まずは、全てに優先される、県民の「命」を守り、日本一「安全・安心」な県土を築くを一番目の戦略に掲げております。その安全・安心な基盤の下、二番目の戦略として「誰もが活躍できる、安定した雇用を創出する」、三番目の戦略として「“ふじのくに”ならではの魅力ある暮らしを提供し、新しい人の流れをつくる」、四番目の戦略として「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」、五番目の戦略として「時代に合った地域をつくり、地域と地域を連携する」を掲げ、その下に、それぞれ成果指標を設定しています。

なお、成果指標で●になっているところは、現在、県政世論調査を実施中でございます。

- 司会 ありがとうございます。概要についてご説明いただきました。続きまして、次第3について議事を進めさせていただきます。
- 議長を染谷市長に議事進行をお願いしたいと思います。

3. 議事

○染谷市長 依頼がありましたので議長を務めさせていただきます。宜しく願いいたします。それでは議事に入らせていただきます。まず初めに、アンケート結果速報について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 (資料3、資料3付属資料を説明する。)
アンケート調査の実施にあたりましては、市民の皆様・事業者の皆様・中学校など関係者の皆様には大変お忙しいところご協力をいただきました。誠にありがとうございます。この席をお借りして御礼を申し上げます。
アンケートは、例えば、転入・転出はどういったきっかけだったのか。独身の方には結婚したいと考えていらっしゃるか。結婚されている方には、理想とするお子さんは何人か等、主観的な調査項目がございます。
なおクロス集計、自由意見の取りまとめは本日に間に合っておりませんので、速報値として結果報告させていただきます。
資料3の3ページをお開きください。ここに、調査の目的・概要を書かせていただきました。アンケート調査につきましては18歳以上の方を対象とした調査をはじめ、6つの調査をさせていただきました。それでは、資料を説明させていただきます。

(資料3付属資料により、アンケートの結果概要を説明する。)

○染谷市長 事務局からの説明が終わりました。この会議では皆さんに発言していただきたいと思っております。事務局からの説明を聞いて、皆様の意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○A構成員 私どもは事業所の支援を主に、まちを元気にしようということで自分たちも勉強しながら活動をしています。
若い人たちの考えを十分に取り入れてやっていくことが、一番の近道だと思います。役員も若い人たちに代わり、若い人の考えを取り入れているところです。今回の人口減少・地方創生に関しても、若い人の考えを十分取り込んでやっていただきたいと思っております。我々は職人で静岡県はものづくり大国ということでNO.1が百数あるということですが、ものづくりに対して評価をしているが活かされていないのではと思っています。利用をいただいている現状、技術をもっと活かして市民密着型でものづくりを進めていただきたいと思っております。

○市長 他にはございませんか？

○B構成員 補助金はありがたいのですが、タイミングが合わないことが多いと感じています。女性の労働力を活かすべきだと思います。有効求人倍率は島田市は0.8程度という数字です。女性の就職については、子どもをどうやって預けて仕事をしていくか等がポイントになってくるような気がします。託児所もお金がかかって難しい話になってくるのですが、市の指導を受けながら女性が活躍できるような職場づくりができればと思います。

○市長 まさに合計特殊出生率を上げるために、待機児童をゼロにしていかなければいけないところですが、今までにはない、一元的な施策が必要ではないかとも思います。今、有効求人倍率の話が出ましたけれどもいかがですか？

- C 構成員 有効求人倍率は、表面的には 0.81 ですが、就業地ベースでは1を超えています。アルバイトすら雇用できなくて困っているという声も聞きます。静岡県全体で人口減少が進んでいますが、県内のデータを見ますと、数で見ると多いように見受けられますが、指数化してみると、社会減は、富士山周辺の噴火が影響してくるところや、海側周辺のところに多いと思われま。島田の場合は、県全体の社会減とわりと一緒なんですね。他の特定の問題を抱えている地域に比べるとまだ緩やかなのではと思います。以前、高速・物流についてお話したのですが、付加価値生産性を増すためにやはり製造業は必要だと思いますが、今、製造業は人を吸収しないんですね。今回のアンケート調査の中で、どんな職業に就きたいかという、P21の11-2を見て驚いたのは、この地域は製造業が多いのに、意外にも大企業と中小企業のコンビニ・スーパーを含む商業サービス分野が多いことです。これは、雇用のマッチングの面からも注目すべき点です。もうひとつ必要な行政サービスに就労関係がありますが、私どもハローワークでは、来月の14日に勤労者を中心に、介護保険・雇用保険・年金保険を知ることがなかなかできないものですから、基礎的な最低限の知識を持っていただくお役にたてるような企画をしております。
- D 構成員 アンケートの感想ですが、この間も社会減が話題になりましたが、藤枝・静岡に出て行ってしまう人が多いんだなと思いました。若い人が藤枝や静岡に出て行ってしま。近隣市との差別化がポイントだと思います。転出者はマンションに住んでいるんですね、転入者は1戸建てが多いとわかりました。島田市に対して愛着のある方が戻ってくるんだなと思いました。中高生は島田市をまあまあ好きという具合で地域に対する思い入れはあまりないようですが、大人になると最終的に島田に戻ってきたくなくなるということは、どれくらい住んでいると愛着が湧いてくるのだろうかという興味がありました。どれくらいで愛着が生まれてくるか、どれくらい早く愛着が生まれるようにするかが大事だと思います。
- 市長 ありがとうございます。そうですね。地域への思い入れや愛着をどう育てるかというのはとても大事ですね。
- E 構成員 高校生の就職のことで話題が出たので、このアンケートのくくりが大きすぎるので説明させていただきます。現在普通科の高校生で島田高校の大学進学率は98%です。県内への進学は31%で、その他67%はすべて県外です。島田工業と島田商業の進学率については、島田工業については進学が35%、就職が65%となっています。島田商業についても大体同じ数字です。高校生の求人は、ハローワーク経由で求人が来ます。県内から9割。ほとんどが希望どおりの就職ができていて、リーマンショックから立ち直っているので非常に就職率が良いです。島田商業はどうかというと、商業系の学校ですが、殆どが製造業に就職します。地元で就職したい高校生は就職できるのですが、東京の大学などに行った大学生が戻ってきても就職先がない状態です。地域のリーダーとなりうる人が、受け皿を作らないと戻って来れない。その辺を考えていかななくてはいけないと思います。
- 市長 次に、議事(2)に進ませてもらいたいと思います。事務局から、暫定版「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン～未来創造(仮称)」(素案)について、説明をお願いいたします。
- 事務局 (資料4、資料5)を説明する。) 島田市の2060年は、目標人口8万人を掲げてこのビジョンの取り組みに向かいたいと考えております。皆様の意見を伺いたいと思います。

- 市長 ありがとうございます。事務局からの説明が終わりました。2060年の人口目標を8万人とすることについていかがでしょうか？
- F 構成員 地元へ若い世代が返って来れるような方向にしないといけないと思います。我々の時には遠くの大学へ行く若者は少なかったのですが、今は殆ど県外に行って帰って来ない。私の周りにもたくさんいます。なんとか地元に着させていかないと、長期的にどうしていくか知恵を絞っていかないといけない。結婚についても、昔のような世話やきおばちゃんがいなくなりました。偶然の出会いがないと結婚できなくなっています。人口減少は複雑な諸問題の絡み。長期的に知恵を絞らないといけない。出会いの機会の提供なども必要。
- 市長 他にはいかがでしょうか？
- G 構成員 職員採用の際、大量の面接をしますが、島田に帰ってきたい人が多かったです。島田は良いですか？と聞くと「良い」と答えます。内定を出すと、レベルの高い学生ほどやりたいことが多いんです。島田でやりたいことがないから、東京に戻っていくんだと思います。東京までの距離が近く半端な距離も問題だと思います。取り組みについても1番2番3番までありますが、このような方向性で発展していくのは良いと思います。
- H 構成員 3つの取り組みは大変なことだと思いますが、手のうちようによっては、良くなっていくと思うので、この方向でぜひ危機感を持って取り組んで欲しいと思います。2.07という出生率については、いかがかなと思うが、全国的なことなので、いかに知恵を使うかが大事。達成に向けて努力して欲しい。
- I 構成員 仕事が無いから就職できないというのは寂しいこと。企業誘致は大変だと思いますが、努力はしないといけないと思っています。高校生のアルバイトなど、仕事に携わる経験で働く喜びを知ると、地元で就職する考えも大きくなるような気がします。若いときから仕事に携わる経験が欲しいと思います。
- J 構成員 親御さんがどうやって子どもを育てていったらいいか、親御さんにどう子育ての楽しさを伝えていくかということが大事です。母親が一人で子どもの世話をし、父親の出番は最後という考えではなく、大人がみんなで子どもを育てていく環境づくりが大切です。また、子どもを育てることの楽しさを伝えることが学校教育にあっても必要だと思っています。
- K 構成員 子育てはお母さんに限ったことでなく、いろいろな人に「子育てって本当にいいな」と考えていただくことが大事だと思います。
(書籍『赤ちゃんにきびしい国で、赤ちゃんが増えるはずがない。』紹介)
島田市に転居して来て、お子さんに対する視線が本当に優しく、このまちにしかない子育て環境が、まさに島田市らしさで、このまちに住もうという意識につながるのではないかと思います。島田は「まち・ひと・しごと」の中では、「ひと」が一番だと思います。
- 市長 様々なご意見をいただいておりますが、次に、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案」について、事務局から説明いただきます。
- 事務局 前に戻り、補足説明させていただきます。
(資料5)資料編を説明する。)

資料 6、資料 7 の人口ビジョンを受けて、どうやって人口を増やしていくのかということを考えていきたいと思ひます。

(資料 6 を説明する。)

(資料「人口・経済・地域社会の関係」の説明)

内閣府で昨年 10 月に資料をアップしましたので議論の参考にいただければと思ひます。

- 市長 それではいかがでしょうか。「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案」について、ご意見をいただきたいと思ひます。
- L 構成員 質問ですが、地域経済の「稼ぐ」についてご説明をお願いいたします。
- 事務局 「稼ぐ」というキーワードを 4 つ並べさせていただきました。やはり経済は基盤でございますので、島田というエリア、地域の中でお金が回っていかないと豊かにならないと思ひます。地域の中にあるものを外の方に買っていただく、また外の方がここに物を買って来ていただくことが挙げられます。島田の武器は高速交通網などのインフラ・豊かな水を活用して産業に繋げていくのが重要ではないかと考えています。ローカルアベノミクスでは、地域経済へ経済効果の波及を起こすんだとされています。地域の中で基軸となる産業、所得が増えていく、雇用条件の改善、支出も増えていくことを「稼ぐ」と表現させていただきました。
- 市長 人口が減っていくなか、働いて税金を納める時代をこの先考えたとき、稼ぐことから、地域の医療であったり、福祉であったり、介護に使えるお金が回っていくということだと思ひます。他にはいかがでしょうか？
- I 構成員 骨子案の真中に、出会いの場づくりがありますが、これから考えなくてはいけないことだと思ひます。うちの団体でも若い従業員さんで 30 代後半でも独身の方も多し。これから、まちコンを行政でやっていただくと面白いと期待してしまうんですがいかがでしょうか？
- 市長 実は 10 何年前から島田市でもやっています。これに関連して人口を増やしていくことを考えると、島田市は初婚年齢が高いです。生涯独身をいかに減らしていくか、結婚する人たちの年齢をいかに下げていくかが重要。20 代で第 1 子を産まないとなかなか第 3 子までは難しいのかなと思ひます。限られた時間の中で子どもを産むとなると、当然働き方や結婚感など変わっていかないと、目標数値を立てただけでは難しいと思ひます。この対策は国がしっかりやるべきことがあると思ひますし、自治体からも国に要請していかないといけないと思ひます。働き方の見直しやお金のかかる問題など、対策を考えないといけないと思ひます。
- B 構成員 定住人口を増やすことや子供を増やすことは、難しいのではないかとと思ひます。よい住宅を提供して、引っ張ってくることをやった方が良いのではないかとと思ひます。
- 市長 駅周辺の便利な所にマンションが沢山建つことが、手っ取り早く人口を増やす方法なのかという議論があります。島田市に住みたい人は、マンションに住みたいのか、1 戸建てを欲しがっているのではないかと、そういった議論もあります。

- M構成員 一番印象に残ったのが、「子供をまんやかに」子育てをすること。やっぱり子どもにとっては、託児所等が充実すればするほど預けられてしまって、これから夏休みになると、朝から夜まで預けられてしまい、夜になったら寝るという環境になってくる。それが、果たして「子ども」が望んでいることなのか疑問に思ってしまう。そういうなかで、企業の中で福利厚生などを充実していただいて、子どもたちと触れ合う時間を与えていただいて、国から企業に対してサポートしていただくと、子どもと触れ合う機会が増えてくると思います。子どもたちがこれから大人になるときのために、親と触れ合う時間を増やすことで、将来的に人口の維持につながってくるのではと思います。
- 市長 「子供をまんやかに」ということを大事にしているのは島田市の大きな特徴だと思います。理念のところですね。
- N構成員 アンケートの集計を見まして、「中高生が外に出たい」というのは、ある程度当たり前のことだと思います。どれだけ戻ってきてもらえるかが重要だと思います。島田も、都市に住んでいる島田の出身者に島田の良さをアピールしていくことが大事だと思います。島田のことを知らない人が、島田に転居するというハードルより、かつて住んでいた人を島田市に戻す方がよほど可能性が高いと思うので。若い時は気付かない島田の良さというものは、実際には多々あるので、大変な作業ですが、そういうところを情報発信した方が良いと思います。
- 市長 私もそうだなと思います。地元に住み続けている人たちがどんな暮らしをしているかが大事なポイントで、そうか島田に帰る選択肢があるのだなと気付いてもらえる取り組みは必要だなと思います。
- N構成員 私も東京に出て戻ってきた人間です。戻ってきたからこそ、見える部分もあるので、出ることも大事だと思います。
- 市長 ありがとうございます。これで全員にご意見をいただきました。さらにご議論いただきたいと思っておりますが、後ほどにしまして、島田信用金庫様からご提案があるということで、ご説明をお願いいたします。
- G構成員 当金庫は昨年度、島田市、島田商工会議所、島田市商工会と連携し、「島田市中企業支援協議会」を立ち上げてきました。成功事例も出てきておりました資料1から紹介させていただきます。企業の収益力の向上、雇用の創出、住民税増加など、これは当たり前の構造なんです。このサイクルがアベノミクスで、このサイクルを地方で作れということ認識しております。使い勝手の良い補助金の充実をお願いしたいと思います。また、販路拡大では、空港の活用も大事だと考えています。(資料に沿って提案する。)
- 市長 ありがとうございます。貴重なご提案をいただいたと思います。この提案についての質問はございますでしょうか？
では、この件以外のことでも構いません。自由なご意見をお願いします。
- A構成員 沖縄県を見ると、規模は違いますが人口が増えています。理屈抜きで環境が良いとか住みやすいとか、子育てについても産んだ後の環境が良いとか、定年後も住みやすいとか、要因は「環境が良い」ということで選んでいるようです。成功例のアンケートがあれば、参考にできると思います。

- B 構成員 一番良いのは「ふるさと納税」です。ふるさとを思いだしてもらえれば、Uターンにつながるであろうし、税金も入ってくるようにもなるし。もっと派手にアピールして欲しい。
- 市長 最近では、リバティのマラソンの出走権を、5万円以上の納税者に与えるなどしています。他にもホテルの宿泊券など色々とやっています。ふるさとの地場産品を思い出して魅力的に感じていただきたいので、しっかりやっていきたいと思います。
- B 構成員 もっと島田らしさのあるもの、猪の肉や、島田固有の食べ物なんか。ふるさとを思い出すものを利用すると良いと思います。
- H 構成員 資料7のP4の観光に関して、三保の松原が世界遺産になっています。牧之原台地も十分価値があると思いますが、世界遺産登録に向けて、研究してみたいかがでしょうか。
- D 構成員 若い人の受け皿としての仕事を創らないといけないところですが、骨子案に「観光とお茶」となっています。交流人口が増えると華やかになっていきますが、島田は本当にそこなのか、また、高齢化が進む中農業のかなど疑問を感じているところです。
他のまちと似通っているのも、もっと個性的な方向を考えたいと思いました。出て行った人を戻らせるのが重要であるのに、中高生がボランティア活動に参加しておらず、地域に密着していないと思います。小さな頃から、地域・歴史・文化など島田の土地を刷り込むことが大事で、外に対しても重要なことですが、内部へのプロモーションもさらに重要で、ここに住んでもらうことを選んでもらうことが人口の差別化に重要なことだと思います。
- 市長 鋭い指摘だと思います。いかに差別化を図っていくかが重要で、この会議も、島田らしい他が真似したいけれどもできない戦略を立てるための意見を伺うために開いていると思っています。ありがとうございます。
- J 構成員 子どもたちが大人になった時には、仕事のうちの6割が今はない仕事であると言われていました。学校では、いろんな仕事に就けるたくましい子を育てていきたいと思っています。
私は、教育関係の代表ですので、子育てについてお話しします。現在、島田市の小中学校では、「生きる力」を育てています。その中で特に、豊かな心（思いやりの心、感動する心、たくましい心、人の役に立つ行いなど）を育成の筆頭にあげています。島田市では、子ども育てるとこんな子が育つということがわかること。また、子育てに関して、どんなことが島田市で行われているかといったソフト面と保育所のようなハード面。その両面について、島田は応援してくれる子育てしやすいまちだということが、一枚で収まり、一目でわかるような「子育て支援マップ」があるといいなと思います。
- C 構成員 5年間の短いスパンでやらなければならない。アンケートを見ると、2人くらい子供は欲しいけれど収入面で苦しいから1人しか子供を産めない。住宅購入面でも収入が厳しい。これを考えると、どう考えても出生率の上昇は厳しい。
また、有給休暇が全く取れないという現状も見られます。厚労省で取り組んでいるワークライフバランスで有給休暇の取得率の向上や正社員化の促進などで、積極的に人口増につながる労働者の確保を進めて欲しいと思います。特に危機感を持っていただきたいのは、島田市のデータによれば20代は全

人口の9.3%しかいないということです。30代以下は相当少ないわけで、のんびりしていると目先の人口が減っていくと思います。それを意識していないといけないと感じます。

- K構成員 有給休暇に関してなんですけれども、「休むと悪い」となる要因は、一つの仕事を一人にだけ任せきりにしているからではないかと思います。一つの仕事を複数でカバーできると休みやすいですし、そういう時代にならないといけないと思います。女性は仕事もし、子育てもし、介護もし、家事もします。仕事のシェアを始めとした、抵抗がない環境を作るなど、有給休暇を取得しやすい職場環境を整えることが必要だと思います。
- 市長 短い時間で大変貴重な素晴らしいご意見をいただきました。ありがとうございます。事務局は、本日の意見等を踏まえ、次の会議の開催準備をしていただきたいと思います。それでは、進行を事務局にお返しします。
- 司会 それでは次回会議について、事務局からご案内をさせていただきます。
- 事務局 次回は、8月7日（金）、時間を変更して午後1時半から3時半を予定させていただきますと思います。場所は、本会場にて開催いたします。次回のテーマでございますが、人口ビジョンを確認し、総合戦略の骨子をもう少し詰めていく予定でございます。
- 司会 本日はご多用のなかご出席をいただきまして誠にありがとうございました。閉会いたします。

以上